

# 広島中央トピックス



▲ふれあい委員に教わりながら餅をつく子ども(右)



## 日頃の感謝を込めて 志和地区感謝祭

JA志和支店と志和アグリセンターは9月7、8日の両日、志和アグリセンターで感謝祭を開きました。JA共済連広島の「地域農業活性化取組支援助成

支店ふれあい委員会は、子どもたちと一緒にきねと臼を使った餅つきや、志和産の米の食べ比べで会場を盛り上げました。野菜振興協議会による旬の野菜販売や、女性部によるうどんや炊き込みご飯、お寿司の屋台も好評でした。

金」を活用。2日間で合計約1000人が来場しました。

志和堀保育所や東志和保育園の園児、生城太鼓・銭太鼓・ダンスチームなど地元のグループがステージで披露した他、土居神楽団が神楽ばやしを鳴り響かせました。



▲豊栄小学校



## 学ぼう食と農のつながり 稲刈り体験

実りの秋。今年も管内各地の学校で稲刈りの体験が行なわれました。児童は農家やJAと交流を図りながら元気よく稲刈りをしました。



▲三永小学校



## 西条支店が優良賞を受賞 支店協同活動コンクール

JA広島中央会が8月8日に開いた2024年度JAグループ広島支店協同活動コンクールで、西条支店が優良賞を受賞しました。

同支店の塔迫紗良さんと木村早紀さんが昨年度の支店ふれあい委員会活動を発表。寺西小学校5年生の田植え体験学習でふれあい委員や地域の人が指導者となって児童と交流したことや、地域の作品を支店内に展示しているコーナー「ふれあいギャラリー」の取り組みを紹介しました。



▲賞状を受け取った塔迫さん(左)と木村さん(中)

広島中央地域では、全11支店にふれあい委員会を設置し、2014年から活動を展開しています。JAは協同活動の拡充を図るため、今年度、全支店への設置を目指しています。



## 腕前競って交流 ゲートボール大会



▲ボールを打つ参加者

JA広島中央地域とJA共済連広島は9月20日、賀茂環境衛生センター多目的広場で第39回ゲートボール大会を開きました。地域貢献活動の一環で、組合員や利用者の健康維持促進と親睦を深める目的です。

管内各地域の代表9チーム約50人が参加。総当たり戦で競技し、交流を図りました。

白熱した試合を繰り広げた結果、志和町の「志和東」が優勝し、2位は高屋町杵原の「もみじ」でした。賞品と参加賞として管内産の新米が贈られました。



# 水稲

## 令和6年産の課題から 令和7年産に向けて

### ◆令和7年度水稲栽培ごよみの解説

令和6年産の9月25日現在の作況は、全国で102、広島県では104となっております。5月までは天候不順が続いたものの、それ以降は天候に恵まれ、全籾数が平年以上に確保されたことから収量は増加しました。10月9日現在の広島中央地域管内の1等比率は、83.0%。令和5年度の同時期が83.6%でしたので、今年度の収穫量は増、品質は平年並みで推移しています。

ただし、南部域では一部にカメムシ類による被害や高温障害による等級の低下がみられたことから、令和7年度水稲栽培ごよみの一部を、改定しました。そのポイントを解説します。

## 落葉果樹

### 落葉果樹の管理について

#### ◆栽培品種の選定

今月号では、よくご相談いただく落葉果樹類の管理について説明します。

家庭の果樹では管理が行き届かなく、虫などの被害を受け、せっかく結実しても収穫まで至らないことが多いです。次の3点に留意して家庭果樹で収穫を楽しみましょう。

#### ◆肥料について

家庭果樹を畑の片隅に植えている方が多いため、わざわざ肥料を与える方は少ないようですが、野菜と同様に立派な果実を結実させるためには肥料が必要です。主な時期は次の通りです。

#### ●追肥

果樹の追肥は翌年度の花芽を充実させるため6月に行ないます。落葉する樹木類は、4月に新芽が出て、その葉の基部に翌年の花芽をつける時期が6月です。

成木であれば1本あたり1kgを基準に与えましょう。野菜の追肥用のもので構いません。

#### ◆除草剤

春先の田植え後に、一面「アオミドロ」などの藻類が広がっている田が多く発生しました。藻類は、田の雑草のように直接的な被害はないものの、多発してしまうと、除草剤の成分が拡散できないこと、日光がさえぎられるため水温が低下し、初期分げつに影響を及ぼします。また、風に吹かれて浮遊することで若い苗を押し倒し、ひどい場合は苗が腐って欠株となります。

除草剤の効果を十分に発揮させることは、後の栽培管理のためにも必要なことです。

このことから令和7年度水稲栽培ごよみでは、初期除草剤「先陣ジャンボ」と一発除草剤「セイテンジャンボ」「セイテン1kg粒剤」を採用しました。藻類を抑制する除草剤の成分「ジメタメトリン」を含有していますので、長期にわたり藻類の発生を抑制することができず。以前には「スパークスター1kg粒剤」や「アピロファインDジャンボ」などがこの成分を含んでいましたが、初期、一発での「ジメタメトリン」入りの除草剤は久しぶりの発売となります。

ただし、「ジメタメトリン」の総使用回数は2回までになっていますので、中後期除草剤の「レプラスジャンボ」および「レプラス1kg粒剤」は使

#### ●元肥

元肥は落葉直前の10月上旬に施します。完全に落葉すると樹は休眠しているため肥料を与えてもほとんど吸収しません。休眠までに樹勢を回復させるのと翌年度、充実した新芽を発生させるため、成木1本あたり3kgを基準に元肥用の野菜の肥料を散布しましょう。

肥料を吸収する新しい根が一番多く分布しているのは枝先付近です。そこで重点的に散布するようにしてください。また、地表が乾いていると成分が溶出しにくいので散布後はたっぷり水を与えましょう。

#### ◆防除について

石灰硫黄合剤は、古くから樹木類に使われており、発芽前に散布することで病害虫を予防することができます。虫と病気の両方の対策として散布する場合は8倍液となります。散布時期は発芽前となっておりますので梅など発芽が早いものは遅れないよう注意してください。

※発芽しているものに散布すると芽が枯れてしまいます。

石灰硫黄合剤は強いアルカリ性ですので、周りに車などがあると塗装がひどく痛みますので散布時にはトラブルにならないよう十分に注意してください。また、同様の理由で使用後

用できませんので注意してください。

※4月からの店頭販売では「ジメタメトリン」を含有しない「レプラスギア」の販売に切り替えます。

#### ◆殺虫剤

令和6年度も、ごく一部に「トビイロウンカ」による坪枯れが発生しました。甚大な被害とならないよう特に南部域の中生以降の品種を植える場合は「トビイロウンカ」に卓効のある「ヒラキサルト」を含有する「防人箱粒剤」か「紋枯れ病の効果も含む」「スクラム箱粒剤」を選択するようにしましょう。

また、先月号の広報誌で紹介したとおり、「イネカメムシ」の生育分布が広がっています。令和6年度では全体に広がっているというよりも、局地的に多発する圃場が増えて印象です。

今回のごよみではカメムシ類に対する長期の残効を期待し、本田液剤体系の出穂前防除に「ノンプラスバリダントツプロアブル」を採用しました。特に雑種地が近く、毎年カメムシ類の被害に悩まれている圃場では「スタークル」や「エクシード」などの追加防除も併せ対策してください。ただし、殺虫剤成分の「ダントツ」は、カメムシ類の効果は大いに期待

の噴霧器は薬液が残らないようしっかりと洗浄してください。

#### ◆剪定について

剪定は果樹を育てる中で最も重要な技術です。剪定の効果については次の通りです。

- ① 樹高を低くすることで管理が容易になる
- ② 無駄な枝を取り除くことで病害虫の発生を抑制する
- ③ 樹全体に光を届くようにすることで着果を安定させる
- ④ 枝数を制限する事で結実数を制限する

当たり前のことですが剪定作業で結果する枝数が減少します。強い剪定をすると翌年の結実数は減少するので、切りすぎにはくれぐれも注意してください。

剪定の手順は次の通りです。

幹から発生する不要な主枝を元から間引きます。最終的な主枝の数は3〜5本です。

次に、主枝から発生する不要な亜主枝を間引きます。最終的な亜主枝の本数は主枝1本に対して2〜3本です。

ですが、「ウンカ類」には効果が劣るため、箱処理剤は必ず「防人箱粒剤」か「スクラム箱粒剤」を選択するようにしてください。

JAでは本田防除で無人ヘリコプターやドローンなどの委託散布を行なっています。



しかし、最近、近隣の住民からの苦情により散布ができない地域もあります。農業は食品である農産物に使用するため、その安全性は国から担保されていますが、理解いただけない場合も多いようです。トラブルを防ぐ観点からそのような地域での委託散布の受付はできませんので、粒剤や豆つぶ剤の使用を検討してください。

#### 粒剤と豆つぶ剤の利点

- ① 散布時にあまり天候に左右されないことから適期に散布ができる
- ② 植物体に吸収させるため長期の残効が期待でき、かつ効果が安定している

成りを良くするためには、主枝や亜主枝が少なく結果枝が多いことが基本となります。



また、落葉果樹を大別すると、前年伸びた枝に直接着果する「結果枝型」(ウメやモモなど)と前年に伸びた枝に芽が付きそれが伸びて結実する「着果母枝型」があります。ブドウやイチジク、キウイなどは枝が伸びながら結果するため冬に切り詰めておきますが、カキやクリなどは先端付近にある充実した芽が花芽になるため先端を切り戻すとその枝は結実しません。

※剪定作業での転落事故が多発しています。脚立は必ず園芸用の3つ足のものを用意し、広がり防止のチェーンをかけ、脚が動かないなど安全なことを確認して作業してください。



広島中央地域 営農情報

LINE@  
友だち募集中!

お得な情報が  
いっぱいあるよ



ここまる

お友だちには...

- 米や野菜作りなどの営農情報をいち早くお届け!  
(病虫害、防除の情報などなど)
- 災害時などの情報もいち早くお届け!!
- 抽選プレゼントやイベント情報も!

友だち登録方法

- ①右のQRコードで読み取って登録
- ②ID検索から右のIDを入力して登録

LINE ID

@380qsxur



東広島市  
園芸センターより

農業者の土づくりを支援する補助事業を紹介します

【対象者】

東広島市在住で、市内の農地で野菜や果樹、花きの園芸作物を出荷販売する農業者及び農業者団体

【対象となる内容】

- ・ほ場の土壌分析診断に要する経費に対して補助金を交付
- ・補助率 2 / 3 以下、上限5万円
- ・窒素など一般的な主要肥料成分の分析と併せて、微量要素または微生物等の生物性の分析を行なうもの



【その他】

- ・土壌分析診断を依頼する前に、補助金交付申請が必要です。事前に園芸センターに相談してください。
- ・予算の範囲内での補助金交付となります。

申込・問い合わせ

東広島市園芸センター  
TEL (082)433-4411

